

了照寺 所在地：三軒家東 4-15-7

元禄 11 年(1698)に泉州大鳥郡踞尾村(現在の堺市津久野町)の住人第四世北村六右衛門宗俊が、三軒家以南の湿地帯を干拓して新田開発に着手し、元禄 15 年(1702)に完成した。その新田は開発者の出身地の和泉国(泉州ともいう)の「泉」と踞尾の「尾」を取って、「泉尾新田」と名づけられた。

開発者の北村六右衛門は仏教の篤い信奉者だったので、新田の完成に際し、開発のために犠牲になった人夫や魚介類の菩提を弔い、庵寺を建立した。宝暦 13 年(1763)その寺名を六右衛門の法名「了貞」と妻の伊和の法名「照貞」から一文字ずつ取って「了照寺」と定めた。昭和 20 年 3 月の大阪大空襲で本堂や庫裡とともに貴重な寺宝の大半を消失したが、元禄時代の本尊の阿弥陀如来像や北村六右衛門夫婦の木像は焼失をまぬがれ本堂に安置されている。

